

「でかけたよ♪であえたよ♪」 ～さくらはうす・外出の再開～

知的障害児者地域生活支援センター・さくらはうす 生活支援員 椿原左知子・片岡 和久



音楽療法士の音楽、元職員との再会

今年度、新型コロナウイルスの流行により、一旦中止していた外出の取り組みを4年ぶりに再開させました。

3階フロアーの利用者は、toa-Toaの音楽療法士によるミニコンサートや浜大津アーカスにボウリングを楽しみに出かけました。

ミニコンサートでは、音楽療法士によるピアノやアルトサクソフーンの演奏や職員も参加しトーンチャイムでの合奏などがありました。トクエストした演歌を歌い楽しむ利用者や今まで見たことのない光るタンバリンに興味津々になった利用者、自分にとって心地よい距離感で演奏を聴いている利用者などそれぞれの音楽を楽しむことができました。また、ミニコンサートをセ

ンター草津の敷地内にある『みなも』で行ったので、センター草津で勤務している元さくらはうすの職員たちと久々の再会を果たすこともできました。

ボウリング外出は、いつもの活動とは違いボウリング会場にかかるBGMやボールとピンが重なる音のにぎやかさにびっくりする利用者、投球フォームやピンに向かうボールが見られるモニターに目を奪われる利用者もおられました。でも、ゲームが始まるとボウリングに集中!! 活動で行っているよりも多く投げる機会があったのですが、みなさん最後まで夢中になってボールを投げられました。

4階フロアーの利用者は散歩をしてからお弁当を頂く流れ



緑の中を気持ちよく散歩

です。日頃行っているドライブ活動の力を活かして「びわこ文化公園」や「守山地球市民の森」等、緑いっぱいの中を歩いて体を動かしました。背負ったリュックの中には水筒や着替えなどが入っていていつもより重いのですが、それが“いつもと違うぞ。”“今日は特別な日だ。”という気持ちにさせてくれるような気がします。

(外出日の朝、お母さんたちが笑顔で「今日はリュックが重いです。」と言って職員にリュックを手渡されることも特別です。)

歩いて体を動かした後のお弁当。皆さん美味しそうに召し上がっておられました。「とんかつたべたな。おい

しかったな。」と外出が過ぎても嬉しそうに話をされる方もおられます。外出の帰り道。ちょっと寄り道をして自動販売機でジュースを買ったり、元職員が経営する揚げパン屋さんでおやつを買ったり、何気ない幸せを感じる機会でした。

下半期も、まだ外出に行かれていない利用者らが公園や美術館などに出かけられる予定です。コロナ感染予防のため出かけられなかった分、待ちに待った外出です。これからも「日々、利用者が活動などで発揮している力を日常とは違う場所、機会を設けて確かめる、楽しむ機会となるように」一歩ずつ進めていこうと考えています。



ストライクの思いを込めて



元職員の揚げパン屋で買い物